

プログラムを構成する授業科目について

- 学部・学科によって、修了要件は相違しない

--

- 1年時必修科目「情報倫理(2単位)」を修得すること。
また3年時必修科目「確率統計学(2単位)」を修得すること。

必要最低科目数・単位数	2 科目	4 単位	履修必須の有無	令和5年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施
-------------	------	------	---------	--------------------------------

- [illegible]

- [illegible]

- [illegible]

- [illegible]

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報倫理	2	○			○						
確率統計学	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、Society 5.0(データ駆動型社会)、AI、機械学習について「情報倫理」(15回目)
	1-6	・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習など)「情報倫理」(15回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報倫理」(15回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「情報倫理」(15回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「情報倫理」(15回目)
	1-5	・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報倫理」(15回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「情報倫理」(8、9回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報倫理」(3回目、4回目)
	3-2	・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「情報倫理」(7回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「情報倫理」(1、7、8回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報倫理」(1回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「確率統計」(16回目、17回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「確率統計」(16回目、17回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「確率統計」(16回目、17回目)
	2-3	・データの集計(和、平均)「確率統計」(16回目、17回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・デジタル人材として必要な基礎的な知識・技能を身につけている。
- ・データを取り扱うに当たり必要となる倫理観やセキュリティ知識を持ち合わせている。
- ・情報が社会に与える影響を理解し、人間中心の適切な判断ができるようになること。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「**数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版**」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

①プログラム開設年度 令和5 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 人 女性 人 (合計 人)

[illegible]

大学等名 サレジオ工業高等専門学校

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 46 人 (非常勤) 37 人

② プログラムの授業を教えている教員数 4 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 小島 知博

(役職名) 校長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

教務部会

(責任者名) 加藤 雅彦

(役職名) 教務主事

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

サレジオ工業高等専門学校教務規則

⑥ 体制の目的

サレジオ工業高等専門学校の教育に関する事項を審議し、その運営を円滑に行うため、教務部会をおく。同部会は、数理・データサイエンス・AI教育プログラムを含む、全学科すべての教育課程に関する事項を掌理しているため、教務部会において本プログラムの改善や履修者指導に関する事項を取り扱う。

⑦ 具体的な構成員

教務主事 加藤 雅彦
教務主事補 村田 昌巳 三輪 賢一郎
一般教育科長 山野邊 基雄 佐藤 豊
各学科から選出された者 川崎 紀弘 吉田 慧一郎 米盛 弘信 島川 陽一
教務学生部 係長 宮野 祐矢

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	16%	令和6年度予定	36%	令和7年度予定	56%
令和8年度予定	76%	令和9年度予定	96%	収容定員(名)	900

具体的な計画

令和5年度末の時点で、本プログラムの履修生は第1学年の学生である。
数理・データサイエンス・AIプログラムを構成する科目は、全て必修科目で構成されているため
年度進行で入学生毎に履修者は増加し、令和9年度の入学者を持って入学者に対する履修者の
割合が100%となる。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

学科によらず全ての学生が履修できるように、一般必修科目として第一学年に「情報倫理」第
三学年に「確率統計学」を配当をしている。また両科目ともに卒業要件に含まれる科目である
ため全学生が履修および単位修得を行う。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

学科によらず全ての学生が履修できるように、一般必修科目として第一学年に「情報倫理」第
三学年に「確率統計学」を配当をしている。また両科目ともに卒業要件に含まれる科目である
ため全学生が履修および単位修得を行う。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

学科によらず全ての学生が履修できるように、一般必修科目として第一学年に「情報倫理」第三学年に「確率統計学」を配当をしている。また両科目ともに卒業要件に含まれる科目であるため全学生が履修および単位修得を行う。

また、学生の生活全般にわたるサポートを目的として、担任制度を導入している。担任が主として学生の支援を行うが、学年主任や学科長などがバックアップを担当し、組織的な学生指導や学習支援を行っている。これにより、個々の学生に対して手厚いサポートを提供している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

プログラムの必修科目を中心とした授業の資料等をLMSに掲載し、掲示板などで質問や議論ができる体制を取っている。また当該学年で単位修得ができなかった場合においても、次年度以降に単位認定を得るための試験制度が整えられている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

自己点検評価委員会

(責任者名) 山野邊 基雄

(役職名) 副校長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本教育プログラムは必修科目で構成されている。そのため、入学するすべての学生(約180名)が教育プログラムの受講者となり、教育プログラムで必要となる科目を履修している。教育プログラムの履修状況および単位の修得状況は、成績操行会議および落判定会議において確認できる。 履修者の授業への取り組み状況は教務システムで管理されており、クラス担任や科目担当教員に共有されている。また年に4回学生へ成績状況がフィードバックされる仕組みがあり、履修状況が芳しくない場合には担任や科目担当者からヒアリングを行う。 なお、各科目の不可率は現在3%台となっており、卒業までに全ての科目の単位修得に問題がない見通しである。
学修成果	授業科目「情報倫理」におけるデータサイエンス、人工知能、機械学習についての課題に対する取組状況から、受講生が一定程度の理解を示していることが確認できた。また、本科目の不可率は3%程度であることから、受講生には必要な知識や能力がおおむね身に付いているが定量的にも示されていることがわかる。一方で、上記テーマに対する授業回数が少ないため、概略以上の理解が得られたかについては把握することが難しい状況である。 今後は、データサイエンス、人工知能、機械学習等について、受講生のさらなる深い理解を得るため、「情報倫理」や「確率統計学」の授業内容を改訂する必要がある。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	AI・データサイエンスへの理解度、興味・関心の高まり、自身の専攻内容との関わり、情報セキュリティについて、学生にヒアリングした結果、受講生のほぼ全員からポジティブな回答が得られた。また、講義がきっかけとなり、AIやデータサイエンスへの興味が湧いた、あるいはAIについて勉強する動機ができたとの回答もある程度見られた。 AIやデータサイエンスの関心を高め、受講生のより深い理解を得るため、今後は、より詳細な質問項目を設定する必要がある。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学生アンケートの結果から、ほぼすべての受講生が後輩等他学生へ受講を勧めたいとの回答が得られている。現在の社会状況により、データサイエンスや人工知能の学習に対する学生のニーズが高まっていることも要因だが、授業内容についてもある程度の満足度が得られていると考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	学科によらず全ての学生が履修できるように、一般必修科目として第一学年に「情報倫理」第三学年に「確率統計学」を配当をしている。また両科目ともに卒業要件に含まれる科目であるため全学生が履修および単位修得を行う制度となっている。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和6年度時点で教育プログラムの修了者で卒業した学生はいない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本校において地域を中心とした産学官連携強化を取り組む共創の場としてイノベーションコモンズを設けている。実社会の様々な課題を解決し新しい価値を創造する取り組みは、企業からも高く評価されており、数理・データサイエンス・AIはその基盤の一つであることから、その重要性は明らかであり、今後も産業界からの意見を取り入れ、継続的な教育改革を行っていく必要がある。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	数理・データサイエンス・AIについて、初学者でも学びやすく、また学習する意義が理解しやすくなるよう、社会的背景や具体例をふんだんに盛り込んだ授業内容となっている。また、PCルームの端末を使用して実際にデータ処理を体験することにより、受講生の達成感や満足度を高めつつ、興味・関心を持ち、楽しく学べるように工夫されている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	情報リテラシーの授業を長年担当してきた教員とSA(専攻科生)の2名体制で授業が実施されている。担当者が複数いるため、操作のサポートや学習内容に対する質問への対応を迅速に行うことが可能となっている。受講環境も、端末が一人一台用意されているため、各自の進捗状況に合わせた作業が可能となっている。また、使用するPCルームにはプロジェクターとスクリーンが設置されているため、動画や映像なども取り入れやすい環境になっている。学生にとってより有益な授業となるよう、学生アンケート結果をもとに授業改善を実施している。

開講年度 2023

クラス：

番号：

氏名：

科目名（和文）	学科	学年	開講期間	単位数
確率統計学	AD: デザイン学科	3年	半期	2
科目名（英文）	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Probability Statistics	必修	21	1.5	0
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEE プログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応		

授業内容	
授業概要	確率の基本法則および計算方法を理解し、統計的手法による分析能力を習得することを目的とする。
到達目標	A. 集合の表記方法を理解して、集合の記号を用いて事象を表すことができる。 B. 順列・組み合わせの意味と記号を理解して、場合の数や二項係数を求めることができる。 C. 確率の基本性質を理解して、いろいろな事象に対する確率の計算ができる。 D. データを整理して、種々の統計量や相関係数を求めることができる。
授業方法	教科書に沿って講義形式による授業を行う。理解度を確認するために、小テストやプリントを用いて適宜演習を行い課題の提出を求める。課題や定期試験は個々の学習状況が把握できるよう採点・評価し、授業内で返却および解答・解説を行う。
教科書	新版 基礎数学（実教出版）、新版 確率統計（実教出版）
補助教材	新版 基礎数学（実教出版）演習、新版 確率統計（実教出版）演習、授業内プリント
評価方法	1. 成績評価の根拠となる項目およびその割合 (1) 定期試験（70%） (2) 授業内の小テスト・演習および授業外学修として取り組んだ課題による平常点（30%） 2. 評点算出の方法 (1) 上記の配分に従って区間成績を付ける。 (2) 総合成績は区間成績の単純平均とする。 (3) 授業態度により大幅に平常点を減点する可能性がある。 (4) 中間の区間成績が20点未満だと不可が確定する。学期末に再試験を行う場合もある。
関連科目	基礎数学 1、基礎数学 2
実務経験と授業科目の関連性	
準備学習に関するアドバイス	授業の予習・復習において、練習問題にたくさん取り組むこと。本授業は学修単位科目となっており、授業外学修として課題や予習・復習などを含む自学自習への取り組みに45時間を充てる。

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容（理解できた内容にチェックする）
0.75	ガイダンス	☐ シラバスの確認・評価方法などの説明
2.25	集合と要素の個数	☐ 集合の表し方、要素の個数の求め方 (A)
1.5	場合の数	☐ 場合の数の計算 (B)
1.5	順列	☐ 順列の記号および計算 (B)
3	組み合わせ	☐ 組み合わせの記号および計算 (B) ☐ 二項定理と二項係数の計算 (B)
0.75	中間試験	☐ 定期試験
3	確率とその基本性質	☐ 試行と事象、確率の定義 (C) ☐ 確率の加法定理、和事象・余事象の確率の計算 (C)
3	いろいろな確率の計算	☐ 独立試行の確率の計算 (C) ☐ 反復試行の確率の計算 (C)
4.5	データの整理	☐ ヒストグラム・度数分布表の表し方 (D) ☐ 平均値・最頻値・中央値の計算 (D) ☐ 分散・標準偏差の計算 (D) ☐ 散布図の書き方・相関係数の求め方 (D)
0.75	期末試験	☐ 定期試験
1.5	学習指導期間	☐ 試験の返却・解説および補足説明
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： ☐ 優 ☐ 良 ☐ 可 ☐ 不可 （→認定試験結果 ☐ 合格）	

開講年度 2023

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
確率統計学	CS:情報工学科	3年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Probability Statistics	必修	21	1.5	0
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEE プログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応		

授業内容	
授業概要	確率の基本法則および計算方法を理解し、統計的手法による分析能力を習得することを目的とする。
到達目標	A. 集合の表記方法を理解して、集合の記号を用いて事象を表すことができる。 B. 順列・組み合わせの意味と記号を理解して、場合の数や二項係数を求めることができる。 C. 確率の基本性質を理解して、いろいろな事象に対する確率の計算ができる。 D. 確率変数や確率分布の意味を理解して、統計量を書くことができる。
授業方法	教科書に沿って講義形式による授業を行う。理解度を確認するために、小テストやプリントを用いて適宜演習を行い課題の提出を求める。課題や定期試験は個々の学習状況が把握できるよう採点・評価し、授業内で返却および解答・解説を行う。
教科書	新版 基礎数学（実教出版）、新版 確率統計（実教出版）
補助教材	新版 基礎数学（実教出版）演習、新版 確率統計（実教出版）演習、授業内プリント
評価方法	1. 成績評価の根拠となる項目およびその割合 (1) 定期試験（70%） (2) 授業内の小テスト・演習および授業外学修として取り組んだ課題による平常点（30%） 2. 評点算出の方法 (1) 上記の配分に従って区間成績を付ける。 (2) 総合成績は区間成績の単純平均とする。 (3) 授業態度により大幅に平常点を減点する可能性がある。 (4) 中間の区間成績が20点未満だと不可が確定する。学期末に再試験を行う場合もある。
関連科目	基礎数学 1、基礎数学 2
実務経験と授業科目の関連性	
準備学習に関するアドバイス	授業の予習・復習において、練習問題にたくさん取り組むこと。本授業は学修単位科目となっており、授業外学修として課題や予習・復習などを含む自学自習への取り組みに45時間を充てる。

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容（理解できた内容にチェックする）
0.75	ガイダンス	☐ シラバスの確認・評価方法などの説明
2.25	集合と要素の個数	☐ 集合の表し方、要素の個数の求め方 (A)
1.5	場合の数	☐ 場合の数の計算 (B)
1.5	順列	☐ 順列の記号および計算 (B)
3	組み合わせ	☐ 組み合わせの記号および計算 (B) ☐ 二項定理と二項係数の計算 (B)
0.75	中間試験	☐ 定期試験
3	確率とその基本性質	☐ 試行と事象、確率の定義 (C) ☐ 確率の加法定理、和事象・余事象の確率の計算 (C)
3	いろいろな確率の計算	☐ 独立試行の確率の計算 (C) ☐ 反復試行の確率の計算 (C)
1.5	データの整理	☐ ヒストグラム・度数分布表の表し方 (D) ☐ 平均値・最頻値・中央値の計算 (D) ☐ 分散・標準偏差の計算 (D) ☐ 散布図の書き方・相関係数の求め方 (D)
3	確率変数と確率分布	☐ 確率変数の意味、確率分布の作成 (D) ☐ 確率変数に対する期待値の求め方 (D) ☐ 確率変数に対する分散・標準偏差の求め方 (D)
0.75	期末試験	☐ 定期試験
1.5	学習指導期間	☐ 試験の返却・解説および補足説明
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： ☐ 優 ☐ 良 ☐ 可 ☐ 不可 （→認定試験結果 ☐ 合格）	

開講年度 2023

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
確率統計学	EE:電気工学科	3年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Probability Statistics	必修	21	1.5	0
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEE プログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応		

授業内容	
授業概要	確率の基本法則および計算方法を理解し、統計的手法による分析能力を習得することを目的とする。
到達目標	A. 集合の表記方法を理解して、集合の記号を用いて事象を表すことができる。 B. 順列・組み合わせの意味と記号を理解して、場合の数や二項係数を求めることができる。 C. 確率の基本性質を理解して、いろいろな事象に対する確率の計算ができる。 D. 確率変数や確率分布の意味を理解して、統計量を書くことができる。
授業方法	教科書に沿って講義形式による授業を行う。理解度を確認するために、小テストやプリントを用いて適宜演習を行い課題の提出を求める。課題や定期試験は個々の学習状況が把握できるよう採点・評価し、授業内で返却および解答・解説を行う。
教科書	新版 基礎数学（実教出版）、新版 確率統計（実教出版）
補助教材	新版 基礎数学（実教出版）演習、新版 確率統計（実教出版）演習、授業内プリント
評価方法	1. 成績評価の根拠となる項目およびその割合 (1) 定期試験 (70%) (2) 授業内の小テスト・演習および授業外学修として取り組んだ課題による平常点 (30%) 2. 評点算出の方法 (1) 上記の配分に従って区間成績を付ける。 (2) 総合成績は区間成績の単純平均とする。 (3) 授業態度により大幅に平常点を減点する可能性がある。 (4) 中間の区間成績が20点未満だと不可が確定する。学期末に再試験を行う場合もある。
関連科目	基礎数学 1、基礎数学 2
実務経験と授業科目の関連性	
準備学習に関するアドバイス	授業の予習・復習において、練習問題にたくさん取り組むこと。本授業は学修単位科目となっており、授業外学修として課題や予習・復習などを含む自学自習への取り組みに45時間を充てる。

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容（理解できた内容にチェックする）
0.75	ガイダンス	☐ シラバスの確認・評価方法などの説明
2.25	集合と要素の個数	☐ 集合の表し方、要素の個数の求め方 (A)
1.5	場合の数	☐ 場合の数の計算 (B)
1.5	順列	☐ 順列の記号および計算 (B)
3	組み合わせ	☐ 組み合わせの記号および計算 (B) ☐ 二項定理と二項係数の計算 (B)
0.75	中間試験	☐ 定期試験
3	確率とその基本性質	☐ 試行と事象、確率の定義 (C) ☐ 確率の加法定理、和事象・余事象の確率の計算 (C)
3	いろいろな確率の計算	☐ 独立試行の確率の計算 (C) ☐ 反復試行の確率の計算 (C)
1.5	データの整理	☐ ヒストグラム・度数分布表の表し方 (D) ☐ 平均値・最頻値・中央値の計算 (D) ☐ 分散・標準偏差の計算 (D) ☐ 散布図の書き方・相関係数の求め方 (D)
3	確率変数と確率分布	☐ 確率変数の意味、確率分布の作成 (D) ☐ 確率変数に対する期待値の求め方 (D) ☐ 確率変数に対する分散・標準偏差の求め方 (D)
0.75	期末試験	☐ 定期試験
1.5	学習指導期間	☐ 試験の返却・解説および補足説明
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： ☐ 優 ☐ 良 ☐ 可 ☐ 不可 （→認定試験結果 ☐ 合格）	

開講年度 2023

クラス：

番号：

氏名：

科目名（和文）	学科	学年	開講期間	単位数
確率統計学	ME:機械電子工学科	3年	半期	2
科目名（英文）	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Probability Statistics	必修	21	1.5	0
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応		

授業内容	
授業概要	確率の基本法則および計算方法を理解し、統計的手法による分析能力を習得することを目的とする。
到達目標	A. 集合の表記方法を理解して、集合の記号を用いて事象を表すことができる。 B. 順列・組み合わせの意味と記号を理解して、場合の数や二項係数を求めることができる。 C. 確率の基本性質を理解して、いろいろな事象に対する確率の計算ができる。 D. 確率変数や確率分布の意味を理解して、統計量を書くことができる。
授業方法	教科書に沿って講義形式による授業を行う。理解度を確認するために、小テストやプリントを用いて適宜演習を行い課題の提出を求める。課題や定期試験は個々の学習状況が把握できるよう採点・評価し、授業内で返却および解答・解説を行う。
教科書	新版 基礎数学（実教出版）、新版 確率統計（実教出版）
補助教材	新版 基礎数学（実教出版）演習、新版 確率統計（実教出版）演習、授業内プリント
評価方法	1. 成績評価の根拠となる項目およびその割合 (1) 定期試験（70%） (2) 授業内の小テスト・演習および授業外学修として取り組んだ課題による平常点（30%） 2. 評点算出の方法 (1) 上記の配分に従って区間成績を付ける。 (2) 総合成績は区間成績の単純平均とする。 (3) 授業態度により大幅に平常点を減点する可能性がある。 (4) 中間の区間成績が20点未満だと不可が確定する。学期末に再試験を行う場合もある。
関連科目	基礎数学1、基礎数学2
実務経験と授業科目の関連性	
準備学習に関するアドバイス	授業の予習・復習において、練習問題にたくさん取り組むこと。本授業は学修単位科目となっており、授業外学修として課題や予習・復習などを含む自学自習への取り組みに45時間を充てる。

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容（理解できた内容にチェックする）
0.75	ガイダンス	☐ シラバスの確認・評価方法などの説明
2.25	集合と要素の個数	☐ 集合の表し方、要素の個数の求め方 (A)
1.5	場合の数	☐ 場合の数の計算 (B)
1.5	順列	☐ 順列の記号および計算 (B)
3	組み合わせ	☐ 組み合わせの記号および計算 (B) ☐ 二項定理と二項係数の計算 (B)
0.75	中間試験	☐ 定期試験
3	確率とその基本性質	☐ 試行と事象、確率の定義 (C) ☐ 確率の加法定理、和事象・余事象の確率の計算 (C)
3	いろいろな確率の計算	☐ 独立試行の確率の計算 (C) ☐ 反復試行の確率の計算 (C)
1.5	データの整理	☐ ヒストグラム・度数分布表の表し方 (D) ☐ 平均値・最頻値・中央値の計算 (D) ☐ 分散・標準偏差の計算 (D) ☐ 散布図の書き方・相関係数の求め方 (D)
3	確率変数と確率分布	☐ 確率変数の意味、確率分布の作成 (D) ☐ 確率変数に対する期待値の求め方 (D) ☐ 確率変数に対する分散・標準偏差の求め方 (D)
0.75	期末試験	☐ 定期試験
1.5	学習指導期間	☐ 試験の返却・解説および補足説明
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： ☐ 優 ☐ 良 ☐ 可 ☐ 不可 （→認定試験結果 ☐ 合格）	

開講年度 2023

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報倫理	全学科	1年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Information Ethics	必修	22.5	22.5	0
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEE プログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応		

授業内容	
授業概要	現在のSociety5.0の社会において、倫理観を確立した社会人になるために、インターネットのルールやマナー、実際に起こっているトラブルや対策だけではなく、社会全体で起きている変化や事例に触れながら、社会で生きるために必要な最低限の知識を学ぶ。 そして将来技術者として必須となる、情報利用技術（リテラシー）の基礎やAIの初歩的知識、AI・データ利活用方法を習得することを目標とする。
到達目標	A. インターネットを利用して得られる情報を有効に活用できる B. インターネット社会の問題点を把握できる C. インターネット社会での被害者や加害者にならないための知識と判断力を持つことができる D. ネットワーク社会での自制的倫理観（できるけどやらない）を持つことができる E. ワープロや表計算ソフトなどを用いて情報リテラシーの基礎技術を活用できる F. 授業で扱った基本的な用語を理解し活用することができる G. AIに関する初歩的知識を理解し、利活用することができる H. Society 5.0が目指す社会を理解することができる
授業方法	授業は講義45分・演習45分で行う。講義は内容をスクリーンに投影しながら行い、毎時配布する授業プリントを完成させながら知識を習得していく。演習ではパソコンを使ったリテラシー能力として、インターネットでのデータ検索技法とデータ収集技法、文章作成技法、データ処理技法、資料作成技法を習得して、演習成果を課題として提出する。なお、定期試験は採点后に返却し、理解度の確認を求める。演習課題については、評価の根拠と注意点を示し、習得度の確認を求める。
教科書	インターネット社会を生きるための情報倫理 IEC・情報倫理教育研究グループ 実教出版 30時間でマスター Office2019 実教出版企画開発部 実教出版
補助教材	事例でわかる情報モラル&セキュリティ2023 実教出版編修部 実教出版
評価方法	年間4回の区間で評価を行い、各区間の評価項目と評価割合は以下のとおりである。 (1) 定期試験（年4回） 50% (2) リテラシ演習課題 40% (3) 授業プリント提出 10% なお、各区間での応用課題（任意）を提出した場合は、区間評価点が100点を超えない範囲で加点を行う。 各区間での区間評価点と総合評価点は以下の式で算出する。評価対象は、定期試験と演習課題および授業プリント（各100点満点）に評価割合を加味したものである。 ・区間評価点（各区間のみの評価）＝試験得点＋課題得点＋授業プリント得点＋応用課題加点 ・総合評価点（成績通知表の評価点）＝（今回までの区間評価点の合計）/区間数
関連科目	中学情報基礎、技術家庭（情報技術）、各学科の情報関連科目群
実務経験と授業科目の関連性	
準備学習に関するアドバイス	Officeの課題の作成、報告書の作成やそのための調査、ブラインドタッチタイピングの練習などは、授業時間外にもメディアセンターや自宅のパソコンを積極的に利用して行ってください。

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容（理解できた内容にチェックする）
	1.5 授業ガイダンス	☐ 授業の意義、授業計画、評価方法、インターネット社会 ☐ メディアセンターの利用方法、PCの基本操作
	2 情報と情報社会（講義）	☐ 情報と情報社会の特徴（B, C, D, F） ☐ 情報の受信・発信と個人の責任（B, C, D, F）
	2 個人情報と知的財産（講義）	☐ 個人情報（B, C, D, F） ☐ 知的財産権（B, C, D, F）
1.5	タイピング（演習）	☐ ブラインドタッチタイピングの練習（A, E）
2	Word（演習）	☐ MicroSoft-Wordの基本機能と操作（A, E）
0.75	前期中間試験	
4.5	ネットにおけるコミュニケーションとマナー（講義）	☐ 電子メールによる情報の受信・発信（B, C, D, F） ☐ Webページによる情報の受信・発信（B, C, D, F） ☐ ネット上のコミュニケーション（B, C, D, F）
3	Excel（演習）	☐ MicroSoft-Excelの基本機能と操作（A, E）
3	情報収集、レポート作成 1（演習）	☐ 「著作権」をテーマにWordでレポートを作成（A, E）
0.75	前期末試験	
1.5	前期のまとめ	☐ 試験の解説、理解が不十分な内容の補足
	4 情報社会における生活（講義）	☐ 社会生活における情報（B, C, D, F） ☐ 身近な生活における情報（B, C, D, F） ☐ ネット社会におけるトラブルと犯罪（B, C, D, F）
2.5	PowerPoint（演習）	☐ MicroSoft-PowerPointの基本機能と操作（A, E）
2.5	情報収集、レポート作成 2（演習）	☐ 「ネットトラブル」をテーマにWordでレポートを作成（A, E）
0.75	後期中間試験	
4.5	情報セキュリティとネット被害（講義）	☐ 情報セキュリティ（B, F） ☐ コンピュータへの被害（B, F） ☐ ネット社会のセキュリティ技術（B, F）
3	応用Excel（演習）	☐ 家計簿のExcelシートとグラフ作成（A, E）
3	情報収集、レポート作成 3（演習）	☐ 「セキュリティ」をテーマにWordでレポートを作成（A, E）
0.75	後期末試験	
1.5	後期のまとめ	☐ Society 5.0が目指す社会、データ駆動型社会（H） ☐ 機械学習の概念およびAI（汎用型AIと特化型AIの違い）の誕生について（G） ☐ 試験の解説、理解が不十分な内容の補足
合計 45 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： ☐ 優 ☐ 良 ☐ 可 ☐ 不可 （→認定試験結果 ☐ 合格）	

2023シラバス授業配当表
情報倫理、確率統計学抜粋版

2024.4.30
サレジオ工業高等専門学校

学年	学科	クラス	科目名	担当教員	所属学科
1	全学科	A	情報倫理	米山 秋文	一般教育科
1	全学科	B	情報倫理	米山 秋文	一般教育科
1	全学科	C	情報倫理	米山 秋文	一般教育科
1	全学科	D	情報倫理	米山 秋文	一般教育科
3	デザイン学科	AD	確率統計学	中屋敷 亮太	一般教育科
3	電気工学科	EE	確率統計学	松本 響	一般教育科
3	機械電子工学科	ME	確率統計学	松本 響	一般教育科
3	情報工学科	CS	確率統計学	松本 響	一般教育科

2020年度以降入学生 学習・教育目標

学習・教育到達目標の対比（準学士課程・専攻科課程・JABEE プログラム）

	準学士課程	専攻科課程	JABEE プログラム
(A)	幅広い教養の基に多面的に物事をとらえ、技術者としての使命を自覚し、行動できるチャレンジ精神溢れる技術者		
(A－１)	健康や身体についての理解を深め、健康な心身を培うことができる (① 知識・技能)		健康や身体についての理解を深め、健康な心身を培うことができる (① 知識・技能)
(A－２)	他者の多様性を認識し、自分の考えを深めることができる (① 知識・技能, ② 思考力・判断力・表現力)		
(A－３)	技術に関係する歴史を踏まえて、技術者としての社会的な責任と使命 (技術者倫理) について理解できる (① 知識・技能)		技術に関係する歴史を踏まえて、技術者としての社会的な責任と使命 (技術者倫理) について理解できる (① 知識・技能)
(A－４)	技術者として常に使い手の立場に立って考えることができる (① 知識・技能, ② 思考力・判断力・表現力, ③ 態度)		
(B)	専門分野について、その基礎理論および原理を理解し、自主的継続的に学ぶことができる技術者		
(B－１)	数学、自然科学および情報技術に関する基礎知識を身につけ、それらを専門分野の学習に活用できる (① 知識・技能)	数学、自然科学および情報技術に関する基礎知識を身につけ、それらを活用して自ら専門分野を学修することができる (① 知識・技能)	
(B－２)	自分の専攻した専門分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて工学的な現象またはデザインの意図が理解できる (① 知識・技能, ② 思考力・判断力・表現力)		
(B－３)	異なる技術分野の知識を身につけ、自分の専攻した専門分野との関係を理解できる (① 知識・技能)	異なる技術分野を理解し、自分の専攻した専門分野の知識と複合する能力を身につける (① 知識・技能, ② 思考力・判断力・表現力)	
(C)	コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけた社会性豊かな技術者	コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけた国際社会で活躍できる技術者	
(C－１)	日本語で書かれた文章を理解でき、また自分の意見や考えを記述できる (① 知識・技能, ② 思考力・判断力・表現力)	日本語に加え特定の外国語を用いて読み書きができる (① 知識・技能, ② 思考力・判断力・表現力)	
(C－２)	日本語で他者の意見を聞き、自分の意見や考えをことばで伝えることができる (① 知識・技能, ② 思考力・判断力・表現力)	日本語に加え特定の外国語を用いて他者の意見を聞き、自分の意見や考えをことばで伝えることができる (① 知識・技能, ② 思考力・判断力・表現力)	
(C－３)	国際的に通用する言語を用いて、日常的な会話を成立させることができる (① 知識・技能)		
(D)	他者と協力して問題解決に当たることができる技術者		
(D－１)	習得した専門知識を問題解決の過程において応用できる (② 思考力・判断力・表現力, ④ 問題解決能力)		
(D－２)	問題解決のためのプロセスを理解している (① 知識・技能, ④ 問題解決能力)	問題解決のための計画・実行方法の立案、得られた結果の評価ができる (② 思考力・判断力・表現力, ④ 問題解決能力)	
(D－３)	他者と適切なコミュニケーションを持って共同作業を進めることができる (③ 態度, ④ 問題解決能力)		

新DP対応 科目系統図（デザイン学科）

[illegible]

新DP対応 科目系統図（電気工学科）

学校DP	小項目	1年生	CP	2年生	CP	3年生	CP	4年生	CP	5年生	CP
A	A-1	保健体育	1	保健体育	1	体育実技	1	体育実技	1	体育実技	1
	A-2	国語 倫理	2 2	国語	2	国語	2	国語 倫理	2 2		
	A-3	情報倫理 地理・歴史	2 2					選択人文社会	2	技術者倫理	A-3
	A-4	情報倫理	2								
B	B-1	基礎数学1	1	代数幾何学	1	情報処理	2	電子計算機	3	物理学演習	1
		基礎数学2	1	微分積分学	1	確率統計学	1	電気数学1	3	化学演習	1
		基礎物理1	1	自然科学入門	1	解析学1	1	電気数学2	3		
				基礎物理2	1	化学 物理 数学演習1	1 1 1	数学演習2 物理学演習 化学演習	1 1 1		
B	B-2	電気回路1	2	電気回路2 電気磁気学1	2 2	回路理論1 電子工学 電気機器 計測工学	3 3 3 3	回路理論2 電気磁気学2 電子回路 メカトロニクス 発変電工学 電力系統工学 応用物理 パワーエレクトロニクス	3 3 3 3 3 3 3 3	高電圧工学 電気応用 電機設計 電気法規 電気電子材料 自動制御 通信工学概論	3 3 3 3 3 3 3
	B-3	CAD	2			機械工学 現代社会	3 2	システム工学 選択人文社会	3 2	システム工学 選択人文社会	3 2
C	C-1	国語	1	国語	1	国語	1	国語	1	卒業研究	3
	C-2	情報倫理	1							卒業研究	3
	C-3	英語	2	英語	2	英語	2	選択外国語	3		
D	D-1									卒業研究	3
	D-2			創造設計	1					卒業研究	3
	D-3	電気工学基礎	2	電気工学実験1	2	電気工学実験2	2	電気工学実験3	2	卒業研究	3

新DP対応 科目系統図（機械電子工学科）

学校DP	小項目	1年生	CP	2年生	CP	3年生	CP	4年生	CP	5年生	CP
A	A-1	保健体育	1	保健体育	1	体育実技	1	体育実技	1	体育実技	1
	A-2	国語 倫理	2 2	国語	2	国語	2	国語 倫理	2 2	創造設計学 卒業研究	1 2
	A-3	情報倫理 地理・歴史	2 2			現代社会	2	選択人文社会	2	技術者倫理	3
	A-4	情報倫理	2							創造設計学 技術者倫理 電気通信法規 卒業研究	1 3 2 2
B	B-1	工学基礎 製図 工学基礎演習 基礎数学1 基礎数学2 基礎物理1	2 2 2 1 1 1	機械加工1 電子計算機 電気回路の基礎と演習 代数幾何学 微分積分学 自然科学入門 基礎物理2	2 2 2 1 1 1 1	電気回路1 電気磁気1 工業材料 確率統計学 解析学1 化学 物理	2 2 2 1 1 1 1	解析学2	1	応用物理学 卒業研究	3 3
	B-2	工学基礎 創造演習（1年） 製図 工学基礎演習	2 2 2 2	機械加工1 電子計算機 創造演習（2年） 電気回路の基礎と演習 機械電子工学実験	2 2 2 2 2	電気回路1 電気磁気1 通信工学 工業材料 機械電子工学実験 機械加工2	2 2 2 2 2 2	線形代数 アナログ電子回路 電気回路2 電気磁気2 半導体デバイス アンテナ工学 材料力学 機械電子工学実験	3 3 3 3 3 3 3 3	創造設計学 デジタル電子回路 制御工学 計測工学 機構学 応用物理学 技術者倫理 電気通信法規 卒業研究	3 3 3 3 3 3 3 3
	B-3									創造設計学 電気通信法規 卒業研究	3 3 3
	B-4										
C	C-1	国語	1	機械電子工学実験 国語	3 1	機械電子工学実験 国語	3 1	機械電子工学実験 国語	3 1	電気通信法規	3
	C-2	情報倫理	3	機械電子工学実験	3	機械電子工学実験	3	機械電子工学実験	3		
	C-3	英語	2	英語	2	英語	2	選択外国語	2		
D	D-1	創造演習	1	創造演習	1					創造設計学 応用物理学 卒業研究	1 2 3
	D-2			創造演習	1					創造設計学 卒業研究	1 3
	D-3									創造設計学 卒業研究	1 3

新DP対応 科目系統図（情報工学科）

学校DP	小項目	1年生	CP	2年生	CP	3年生	CP	4年生	CP	5年生	CP
A	A-1	保健体育	1	保健体育	1	体育実技	1	体育実技	1	体育実技	1
	A-2	国語 倫理	2 2	国語	2	国語	2	国語 倫理	2 2	卒業研究	3
	A-3	情報倫理 地理・歴史 情報社会論	2 2 2			現代社会	2	選択人文社会	2	技術者倫理	3
	A-4	情報倫理	2							技術者倫理 ソフトウェア工学 卒業研究	3 3 3
B	B-1	基礎数学 1 基礎数学 2 基礎物理 1 プログラミング基礎 1	1 1 1 2	微分積分学 代数幾何学 自然科学入門 基礎物理 2 プログラミング基礎 2	1 1 1 1 2	解析学 1 化学 物理 情報数学概論 線形代数 1 線形代数 2 確率統計学 解析学 2	2 1 1 2 2 2 2 2	離散数学 1 解析学 3 離散数学 2 計算機アーキテクチャ 統計解析学 1	3 3 3 3 3	卒業研究 統計解析学 2 人工知能 情報ネットワーク	3 3 3 3
	B-2	情報工学概論 プログラミング基礎 1	2 2	プログラミング基礎 2 電気回路 1 電気回路 2	2 2 2	プログラミング基礎 3 アルゴリズム論 1 論理回路 アルゴリズム論 2 デジタル回路設計	3 3 3 3 3	数値計算 1 電子回路 数値計算 2 計算機アーキテクチャ	3 3 3 3	卒業研究 画像処理 デジタル信号処理 人工知能 OS概論 情報ネットワーク	3 3 3 3 3 3
	B-3									卒業研究	3
	B-4										
C	C-1	国語	1	国語	1	国語	1	国語	1	卒業研究 情報工学演習 2	3 3
	C-2	情報倫理	1							卒業研究	3
	C-3	英語	2	英語	2	英語	2	選択外国語	2		
D	D-1			情報工学実験 1 情報工学実験 2	2 2	情報工学実験 3 情報工学実験 4 プログラミング基礎 3	2 2 1	情報工学実験 5 情報工学演習 1	2 2	卒業研究 情報工学演習 2	3 2
	D-2					情報工学実験 3 情報工学実験 4	2 2	情報工学実験 5 プログラミング応用 1 プログラミング応用 2	2 1 1	卒業研究	3
	D-3			情報工学実験 1 情報工学実験 2	2 2	情報工学実験 3 情報工学実験 4 プログラミング基礎 3	2 2 1	情報工学実験 5	2	卒業研究 ソフトウェア工学	3 2

GE(AD) 教育課程表 (2023年度入学生)

科目番号	科目名（和文）	学科	履修 形態	開講期間	単位数		実験実習	実務経験	学年別週当授業時間数（単位時間：1単位50分）										学習・教育到達目標													備考
					履修単位	学修単位			1年		2年		3年		4年		5年		A.人間性				B.専門性			C.コミュニケーション			D.創造性			
									前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	D-1	
	国語（1年）	GE	必修	通年	2					2	2									○						○						
	国語（2年）	GE	必修	通年	4							4	4							○						○						
	国語（3年）	GE	必修	通年	2									2	2					○						○						
	国語（4年）	GE	必修	通年	2										2	2				○						○						
	倫理（1年）	GE	必修	半期	1				○		2									○												
	倫理（4年）	GE	必修	半期	1				○							2				○												
	情報倫理	GE	必修	通年	2					2	2										○	○					○					
	地理・歴史	GE	必修	通年	2					2	2										○											
	現代社会	GE	必修	通年	2								2	2							○											
	選択人文社会	GE	必修	半期		2			○						2	(2)	(2)	(2)			○											
	文書作成	GE	必修	通年	2										2	2										○	○					
	基礎数学1	GE	必修	通年	4					4	4												○									
	基礎数学2	GE	必修	通年	3					4	2												○									
	代数幾何学	GE	必修	通年	2							2	2										○									
	微分積分学	GE	必修	通年	4							4	4										○									
	確率統計学	GE	必修	半期		2								2									○									
	データ解析	GE	必修	半期		2									2								○		○							
	自然科学入門	GE	必修	通年	2							2	2										○									
	化学	GE	必修	通年	2									2	2								○									
	基礎物理1	GE	必修	通年	2					2	2												○									
	基礎物理2	GE	必修	通年	2							2	2										○									
	自然科学とデザイン	GE	必修	半期		2									2								○		○							
	保健体育（1年）	GE	必修	通年	2			○	○	2	2								○													
	保健体育（2年）	GE	必修	通年	2			○	○			2	2						○													
	体育実技（3年）	GE	必修	通年	2			○						2	2					○												
	体育実技（4年）	GE	必修	通年	2			○	○						2	2				○												
	体育実技（5年）	GE	必修	通年	2			○	○								2	2	○													
	英語（1年）	GE	必修	通年	6					6	6																	○				
	英語（2年）	GE	必修	通年	6							6	6															○				
	英語（3年）	GE	必修	通年	4									4	4													○				
	選択外国語	GE	必修	半期		4									2	2	(2)	(2)										○				
	数学演習1	GE	選択	半期	(1)								(2)	(2)																		
	数学演習2	GE	選択	半期	(1)										(2)	(2)																
	物理学演習	GE	選択	半期	(1)										(2)	(2)	(2)	(2)														
	化学演習	GE	選択	半期	(1)										(2)	(2)	(2)	(2)														

単位数	67	12
単位数計	79	

授業時間	24	24	22	22	14	14	12	10	2	2
単位数	24		22		16		15		2	

前年度からの変更及び特記事項なし

GE(EE) 教育課程表 (2023年度入学生)

科目番号	科目名（和文）	学科	履修 形態	開講期間	単位数		実験実習	実務経験	学年別週当授業時間数（単位時間：1単位50分）										学習・教育到達目標												備考	
					履修単位	学修単位			1年		2年		3年		4年		5年		A.人間性				B.専門性			C.コミュニケーション			D.創造性			
									前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3		D-1
	国語（1年）	GE	必修	通年	2					2	2								○					○								
	国語（2年）	GE	必修	通年	4							4	4						○					○								
	国語（3年）	GE	必修	通年	2									2	2				○					○								
	国語（4年）	GE	必修	通年	2									2	2				○					○								
	倫理（1年）	GE	必修	半期	1				○			2							○													
	倫理（4年）	GE	必修	半期	1				○						2				○													
	情報倫理	GE	必修	通年	2					2	2									○	○					○						
	地理・歴史	GE	必修	通年	2					2	2									○												
	現代社会	GE	必修	通年	2								2	2						○												
	選択人文社会	GE	必修	半期		2			○					2	(2)	(2)	(2)															
	基礎数学1	GE	必修	通年	4					4	4											○										
	基礎数学2	GE	必修	通年	3					4	2											○										
	代数幾何学	GE	必修	通年	2							2	2									○										
	微分積分学	GE	必修	通年	4							4	4									○										
	確率統計学	GE	必修	半期		2								2								○										
	解析学1	GE	必修	通年		4							2	2							○											
	自然科学入門	GE	必修	通年	2							2	2									○										
	化学	GE	必修	通年	2									2	2							○										
	基礎物理1	GE	必修	通年	2					2	2											○										
	基礎物理2	GE	必修	通年	2							2	2									○										
	物理	GE	必修	通年	2									2	2							○										
	保健体育（1年）	GE	必修	通年	2			○	○	2	2								○													
	保健体育（2年）	GE	必修	通年	2			○	○			2	2						○													
	体育実技（3年）	GE	必修	通年	2			○						2	2				○													
	体育実技（4年）	GE	必修	通年	2			○	○						2	2			○													
	体育実技（5年）	GE	必修	通年	2			○	○							2	2		○													
	英語（1年）	GE	必修	通年	6					6	6																○					
	英語（2年）	GE	必修	通年	6							6	6														○					
	英語（3年）	GE	必修	通年	4									4	4												○					
	選択外国語	GE	必修	半期		4									2	2	(2)	(2)									○					
	数学演習1	GE	選択	半期	(1)									(2)	(2)																	
	数学演習2	GE	選択	半期	(1)										(2)	(2)																
	物理学演習	GE	選択	半期	(1)										(2)	(2)	(2)	(2)														
	化学演習	GE	選択	半期	(1)										(2)	(2)	(2)	(2)														

単位数	67	12
単位数計	79	

授業時間	24	24	22	22	16	18	8	8	2	2
単位数	24		22		20		11		2	

前年度からの変更及び特記事項なし

GE(ME) 教育課程表 (2023年度入学生)

科目番号	科目名（和文）	学科	履修 形態	開講期間	単位数		実験実習	実務経験	学年別週当授業時間数（単位時間：1単位50分）										学習・教育到達目標													備考
					履修単位	学修単位			1年		2年		3年		4年		5年		A.人間性				B.専門性			C.コミュニケーション			D.創造性			
									前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	D-1	
	国語（1年）	GE	必修	通年	2					2	2								○						○							
	国語（2年）	GE	必修	通年	4							4	4						○						○							
	国語（3年）	GE	必修	通年	2									2	2				○						○							
	国語（4年）	GE	必修	通年	2										2	2			○						○							
	倫理（1年）	GE	必修	半期	1			○			2								○													
	倫理（4年）	GE	必修	半期	1			○								2			○													
	情報倫理	GE	必修	通年	2					2	2										○	○					○					
	地理・歴史	GE	必修	通年	2					2	2									○												
	現代社会	GE	必修	通年	2								2	2						○												
	選択人文社会	GE	必選	半期		2		○						2	(2)	(2)	(2)															
	基礎数学1	GE	必修	通年	4					4	4										○											
	基礎数学2	GE	必修	通年	3					4	2										○											
	代数幾何学	GE	必修	通年	2						2	2									○											
	微分積分学	GE	必修	通年	4						4	4									○											
	確率統計学	GE	必修	半期		2								2							○											
	解析学1	GE	必修	通年		4							2	2							○											
	解析学2	GE	必修	半期		2									2						○											
	自然科学入門	GE	必修	通年	2							2	2								○											
	化学	GE	必修	通年	2									2	2						○											
	基礎物理1	GE	必修	通年	2					2	2										○											
	基礎物理2	GE	必修	通年	2							2	2								○											
	物理	GE	必修	通年	2								2	2							○											
	保健体育（1年）	GE	必修	通年	2		○	○		2	2								○													
	保健体育（2年）	GE	必修	通年	2		○	○				2	2						○													
	体育実技（3年）	GE	必修	通年	2		○							2	2				○													
	体育実技（4年）	GE	必修	通年	2		○	○						2	2				○													
	体育実技（5年）	GE	必修	通年	2		○	○								2	2	○														
	英語（1年）	GE	必修	通年	6					6	6																○					
	英語（2年）	GE	必修	通年	6							6	6														○					
	英語（3年）	GE	必修	通年	4									4	4												○					
	選択外国語	GE	必選	半期		2									2	(2)	(2)	(2)									○					
	数学演習1	GE	選択	半期	(1)								(2)	(2)																		
	数学演習2	GE	選択	半期	(1)										(2)	(2)																
	物理学演習	GE	選択	半期	(1)										(2)	(2)	(2)	(2)														
	化学演習	GE	選択	半期	(1)										(2)	(2)	(2)	(2)														

単位数	67	12
単位数計	79	

授業時間	24	24	22	22	16	18	10	6	2	2
単位数	24		22		20		11		2	

前年度からの変更及び特記事項なし

GE(CS) 教育課程表 (2023年度入学生)

[illegible]

単位数	67	12
単位数計	79	

授業時間	24	24	22	22	16	18	8	8	2	2
単位数	24		22		20		11		2	

前年度からの変更及び特記事項なし

サレジオ工業高等専門学校教務規則

高専規則第 001 号

制定 2003 年 4 月 1 日

最終改正 2024 年 4 月 1 日

第 1 章 総則

(目的と構成)

第 1 条 サレジオ工業高等専門学校準学士課程ならびに専攻科における授業、試験、特別学修単位認定、成績評価、表彰、進級、卒業等、教務に関わる事項について、この規則により実施する。

2 準学士課程ならびに専攻科における教務に関する規則を以下「規則」と称する。

第 1 条の 2 前条の目的を達成するために、校長は必要に応じて教務主事代行をおくことができる。

2 教務主事代行は教務主事の掌理する業務の一部を分担し、教務主事に支障のある場合はその全部の業務を代行することができる。

第 1 条の 3 校長は教務に関する事案を掌理する教務主事補および教務担当を置くことができる。

2 教務担当は以下の各部署より構成される。

- 一 デザイン学科
- 二 電気工学科
- 三 機械電子工学科
- 四 情報工学科
- 五 一般教育科

3 前項の教務主事補および教務担当により教務部会を構成し、教務主事または教務主事代行がこれを主宰する。

(内規)

第 2 条 本規則を施行するに必要な詳細項目については、別に規程および内規により定める。

第 2 章 授業・試験

(授業)

第 3 条 授業は、通常時間授業と科目別補講授業により実施する。

第 3 条の 2 通常時間授業は、別表(1)に時間帯を定めそれにより実施する。

第 3 条の 3 科目別補講授業とは通常時間授業で実施される授業時間の不足時間を補うことを目的とした授業で、実施日および実施時間等は別に定める。

第3条の4 学年暦に記載された科目別補講授業実施日は、授業日数に含まれるものとする。

第3条の5 前期末及び後期末試験後の1週間を学習指導期間とよび、その実施については別に定める。

(試験の種類)

第4条 学生の学業成績の評価や学習指導の資料とするため以下の各号の試験を実施する。

- 一 定期試験とは年間を通して定期的に実施される試験
- 二 追試験とは定期試験等を認められる理由で欠席した場合実施される試験
- 三 再試験とは科目担当者が指定した者を対象に定期試験のやりなおしとして実施される試験
- 四 認定試験とは未修得科目を有する者を対象に実施される試験

第4条の2 前項の各号に定める試験に関する規則は、別に定める。

第3章 校長が認める特別学修による単位修得

(単位認定総則)

第5条 この規定はサレジオ工業高等専門学校学則(以下「学則」という)第13条の2および同条の3に基づき、学生が習得した特別学修の単位認定に関し必要な事項を定める。

(特別学修の定義)

第6条 本校で認める特別学修とは、以下の各号に示すものをいう。

- 一 本校以外の高等教育機関で履修した授業科目、ただし高等教育機関で履修した授業科目とは大学院、大学、短期大学、専修学校専門課程等におかれる公開された科目、講座をいう
- 二 別表(2)に定める資格試験に合格し、合格証を取得した場合
- 三 別表(3)に定める研修、講習、活動等に参加し、修了を認められた場合

(学修単位の申請)

第7条 第6条の各号に掲げる特別学修を履修、合格あるいは修了したことにより単位の認定を受けようとする者は、指定の様式に証明書類(写し可)を添付して校長に申請しなければならない。

2 認定する単位数の上限は一人当たり30単位までとする。

3 申請に係わる手続きについては別に定める。

(学修単位の認定)

第8条 第7条による申請があった場合は、校長は教務部会の議に基づき、本校における授業科目等の履修とみなし、別表(2)、(3)に掲げる単位の修得として認定する。

2 前項の認定がなされた場合はこれを告示する。

第9条 第8条により認定された特別学修の単位については以下の各号により扱う。

- 一 別表(2)の振替認定群に属するものは同表の授業科目を履修したものとし、その授業科目履修に替えられる。ただし振替認定する単位数は10単位を上限とする
- 二 別表(3)の修得認定群に属するものは同表の科目名称で認定するが、卒業単位には加算されない
- 三 修得単位のうち相当の事情のある場合、校長の裁可により振替単位とすることができる

(認定単位の記録)

第10条 第8条により単位の認定をされた特別学修は指導要録等に記載する場合、授業科目欄には該当する資格の名称、研修等の名称を付記するものとする。

2 前項による評価点の記載は「認」とする。

第4章 成績評価・進級・卒業認定に関する規定

(成績評価)

第11条 成績評価は原則年間4回とし、以下の各号の通り実施する。

- 一 その名称は前期中間評価、前期末評価、後期中間評価、学年末評価とする
 - 二 成績評価の時期は(1)に掲げる評価それぞれについて、前期中間試験終了後、前期授業終了後、後期中間試験終了後、後期授業終了後とする
 - 三 科目によっては(1)に掲げる評価のうち、学年末評価以外を省略することができる
 - 四 成績評価は開講当初から(2)に掲げる時期までの評価とし、シラバスに基づいて100点法により評価する
 - 五 前号の評価の名称を「評価点」という
 - 六 科目によっては(4)の代わりに、合格または不合格および認定とすることがある
- 第11条の2 複数の教員で担当した科目の成績評価は、当該教員の合議によって決定する。

(成績操行会議)

第12条 定期試験終了後、学校長は成績操行会議を開催する。

2 成績操行会議の実施に関する規則は別に定める。

(評価の無効)

第13条 以下の各号に該当する科目は、卒業研究を除いて当該科目開講期の期末評価における評価点を0点とする。

- 一 科目の総授業時間数の3分の1以上欠席した科目
 - 二 5年次原級生については、履修している科目について適用する
- 2 以下の各号に該当する学生は、学年末評価における評価点を0点とする。
- 一 前項により期末評価が0点となったすべての科目
 - 二 年間授業日数の3分の1以上欠席した場合、すべての科目

三 5年次原級生については、履修している科目について適用する
(年間評定)

第14条 学年末の成績評価は、当該学年の総合成績とし、その得点により下記のよう
に換算し評定する。

評価点範囲	評定
100 ～ 80	優
79 ～ 70	良
69 ～ 60	可
59 ～ 0	不可

2 卒業研究についての評価点および評定は「合」または「不合格」とする。

3 単位振替認定科目については「認」とする。

4 海外から要求された場合の評定は別に定める。

(保護者への通知)

第15条 保護者への成績の通知は、評価点で通知する。ただし学年末は評定もあわ
せて通知する。

(進級・卒業判定)

第16条 進級認定については別に定める。

第17条 卒業認定については別に定める。

(原級留置)

第18条 進級または卒業を認可されない者は、現学年に留まり、その学年の全授業
科目を再履修し評価を受けなければならない。但し、5年次における留年生で履修
を免除された科目はこの限りではない。

第19条 2年連続して同一学年での留年はできない。但し、長期休学により再履修
できなかった者はこの限りではない。

(聴講生、科目履修生の単位認定)

第20条 学則第49条第4項、第50条第5項に基づき、聴講生及び科目履修生の単
位認定について定める。

2 特定の科目を指定して聴講する学生を科目聴講生とし、この学生の成績の報告は
問わず、単位認定もしない。なお試験を受けることは差し支えない。

3 特別な事由により校長から許可を得た場合、全科目を指定して聴講する学生を全
科目聴講生とし、この場合は参考成績の教務主事への報告を義務付け、校長の裁
可によって当該年度の学年の単位及び修了認定を行うことができる。

4 特定の科目を指定して履修する学生を科目履修生とし、この学生の成績の教務主
事への報告を義務付け、当該科目の単位認定を行う。

5 科目履修生の取得した単位の合計が当該年度を修了したものと同等と見なされれば上位の学年に編入することができる。

6 聴講生、科目履修生とも正規学生に適用される学則等が同様に適用される。

7 単位互換提携校の科目履修生に対しての単位認定は別途これを定める。

(転編入生の単位認定)

第21条 学則第18条により入学を許可されたものについて以下のように区分し、規定する

2 学年途中に同一学年に入学した者を転入学生とする。

3 転入学期以前の成績及び単位認定については別にこれを定める。

4 転入学期以降の成績及び単位認定は正規学生に準じる。

5 学年当初に入学した者を編入学生とする。

6 編入学生の前籍校の前学年までの成績評価、単位取得については別にこれを定める。

7 ただし、編入した学年以前の本校の科目単位に不足が認められる場合は、特別プログラムにより修得相当と見なされるよう努力する義務がある。

8 編入学年以降の成績及び単位認定は正規学生と同等とする。

9 転入学生、編入学生とも正規学生に適用される学則等が同様に適用される。

(再入学生の単位認定)

第22条 学則第24条第2項により再入学を許可された学生を再入学生とし、再入学した学年以降の成績評価、単位取得及び修了認定については正規学生と同等とする。

2 再入学生は正規学生に適用される学則等が同様に適用される。

第5章 表彰規定(廃止)

第23条からの各条項は教務諸規程第10章表彰に関する規程の各条項として読み替える

第6章 留学規定(廃止)

第27条からの各条項は教務諸規程第11章留学に関する規程の各条項として読み替える

第7章 専攻科

(目的と構成)

第31条 学則第40条第2項および第47条の規定に基づき、サレジオ工業高等専門学校専攻科(以下「専攻科」という。)の授業科目の履修方法及び成績評価並びに修了の認定に関して必要な事項を定める。

- 2 校長は教務に関する事案を掌理する教務主事補および教務担当を置くことができる。

(単位数)

第 32 条 標準 90 分 15 回を 2 単位とする。

- 2 授業は、講義、演習、実験・実習のいずれか、またはこれらを併用して行うものとする。

- 3 各授業科目の単位数は、授業の教育効果と授業時間外に必要な学習等を考慮し、授業の方法に応じて次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

一 講義科目については、90 分 15 回の授業をもって 2 単位とする。

二 演習科目については、90 分 30 回の授業をもって 2 単位とする。

三 実験・実習科目については 135 分 30 回の授業をもって 2 単位とする。

(履修方法)

第 33 条 専攻科に開設する授業科目の履修にあたっては、各学期の所定の期日までに履修届を提出しなければならない。

(指導教員)

第 34 条 専攻科の学生は、専攻の指導教員から特別研究の指導を受けるとともに、履修科目を選択するものとする。

(試験)

第 35 条 専攻科の試験は、定期試験と追試験(以下「定期試験等」という。)とする。

- 2 定期試験は各学期末に実施する。なお、平素の成績によって評価し得る科目については、試験の全部又は一部を行わないことができる。

- 3 試験時間割は、試験開始日の 7 日前までに公表する。

- 4 追試験は、病気その他やむを得ない事由により、定期試験を受験できなかった者が、追試験受験願を所定の期日までに提出して、許可を得た上で受験することができる。

- 5 試験中に不正行為を行った者は、当該試験期間中の全試験科目を 0 点とする。

(学業成績の評価)

第 36 条 学業成績の評価は、科目ごとの試験の成績及び出席状況並びに平素の学習状況を総合して次の区分によって行うものとする。ただし、特別研究及びインターシップは評価区分を行わず合否のみを判定する。

評価	100～80	79～70	69～60	59～0
評定	優	良	可	不可

- 2 特別研究の評価は、特別研究論文を提出し、特別研究発表会で発表を行った者に対して行う。

3 前項の特別研究論文に関しては、学協会等において発表できる水準を努力目標とする。

4 複数の教員で担当した科目の成績評価は、当該教員の合議によって決定する。

第 37 条 欠席数が総授業回数の 3 分の 1 以上の授業科目については、原則として評価は行わない。

(単位の認定)

第 38 条 第 36 条の規定に基づき、優、良及び可に評価された授業科目について単位を認定する。

(修了の条件)

第 39 条 専攻科の修了は、学則第 44 条の規程のほか、次表に掲げる条件を満足しなければならない。

必修科目	選択科目	他大学等での履修科目	合計
22 単位	30 単位以上	第 40 条に準拠	62 単位以上

(他の教育施設で履修した単位認定)

第 40 条 大学及び他の高等専門学校の特攻科等(以下「大学等」という。)で開設されている授業科目の履修により取得した単位は、原則 8 科目 16 単位を限度として、本高専専攻科における取得単位として認定を受け修了に必要な単位と換えることができる。

(単位互換)

2 単位互換に係る規則及び事務手続きについては、別途定める。

(再履修)

第 41 条 定期試験等で不合格になった授業科目は、再履修することができる。

2 前項で定める再履修は、第 33 条の規定を準用する。

(専攻科の修了)

第 42 条 専攻科課程の修了の認定は、学則及びこの規定に基づき、専攻科修了認定会議において審議の上校長が行う。

2 修了認定については別に定める。

第 43 条 専攻科の授業料等は以下の通りとする。

費 用	納 付 額
入 学 金	入学時 150,000 円
授 業 料	年額 900,000 円
実験実習費	年額 140,000 円
施設設備費	年額 200,000 円
校 費	年額 81,000 円

- 2 前項の入学金については本校本科より入学する場合は半額とする。
- 3 第1項に定める納付額について専攻科奨学生制度による減免は別にこれを定める。
- 4 原学年に留められた学生から徴収する授業料等は、留められた学年の当該年度学生と同額とする。

(学生細則)

第44条 専攻科学生に関わる学生規則は別途定める。

(内規)

第45条 本規則を試行するに必要な詳細項目については、別に規程および内規により定める。

附 則

- 1 この規則に規定されない事項については規程または内規として別にこれを定める。
- 2 この規則は、2003年4月1日から施行される。
- 3 この規則は、2004年4月1日から改正施行される。
- 4 この規則は、2005年4月1日から改正施行される。
- 5 この規則は、2006年4月1日から改正施行される。
- 6 この規則は、2007年4月1日から改正施行される。
- 7 この規則は、2008年4月1日から改正施行される。
- 8 この規則は、2009年4月1日から改正施行される。
- 9 この規則は、2010年4月1日から改正施行される。
- 10 この規則は、2011年4月1日から改正施行される。
- 11 この規則は、2012年4月1日から改正施行される。
- 12 この規則は、2013年4月1日から改正施行される。
- 13 この規則は、2017年4月1日から改正施行される。
- 14 この規則は、2017年12月1日から改正施行される。
- 15 この規則は、「規則等の制定及び管理に関する規則」の2021年10月1日施行に伴い、当規則内の附則に従い改正を行い、2021年10月1日から施行する。
- 16 この規則は、2022年12月5日に改正施行する。
- 17 この規則は、2021年4月1日に遡って適用する。
- 18 この規則は、2024年4月1日に改正施行する。

別表Ⅰ 平常授業時間割

○土曜日は各種学校行事や科目別補講日等で出校となることがある。
その場合の時間割は別に通知する。

【本科1～3年生】

時間帯	月
LHR	10:00 ～ 10:50
3校時 ----- 4校時	10:50 ～ 12:20
昼休み	12:20 ～ 13:05
5校時 ----- 6校時	13:05 ～ 14:35
7校時 ----- 8校時	14:45 ～ 16:15

時間帯	火 ～ 金
SHR	09:00 ～ 09:10
1校時 ----- 2校時	09:10 ～ 10:40
3校時 ----- 4校時	10:50 ～ 12:20
昼休み	12:20 ～ 13:05
5校時 ----- 6校時	13:05 ～ 14:35
7校時 ----- 8校時	14:45 ～ 16:15

【本科4～5年生】

時間帯	月
SHR	10:40 ～ 10:50
3校時 ----- 4校時	10:50 ～ 12:20
昼休み	12:20 ～ 13:05
5校時 ----- 6校時	13:05 ～ 14:35
7校時 ----- 8校時	14:45 ～ 16:15

時間帯	火 ～ 金
SHR	09:00 ～ 09:10
1校時 ----- 2校時	09:10 ～ 10:40
3校時 ----- 4校時	10:50 ～ 12:20
昼休み	12:20 ～ 13:05
5校時 ----- 6校時	13:05 ～ 14:35
7校時 ----- 8校時	14:45 ～ 16:15

【専攻科 1～2 年生】

時間帯	月	時間帯	火 ～ 金
		1校時	09:10 ～ 10:40
		2校時	
3校時	10:50 ～ 12:20	3校時	10:50 ～ 12:20
4校時		4校時	
昼休み	12:20 ～ 13:05	昼休み	12:20 ～ 13:05
5校時	13:05 ～ 14:35	5校時	13:05 ～ 14:35
6校時		6校時	
7校時	14:45 ～ 16:15	7校時	14:45 ～ 16:15
8校時		8校時	

別表 2 振替認定一覧

試験の種類	級種	授業科目	配当 学年	単位	備考
実用英語技能検定試験	2 級以上	4・5 年次「選択 英語」	4-5	2	
TOEIC 試験	500 点以上	4・5 年次「選択 英語」	4-5	2	

※単位振り替え希望者は、4 月 15 日（土曜、休日、祝日の場合は翌通常授業日）までに申請すること

別表 3 特別学修単位認定一覧

研修等の種類	授業科目	配当学年	単位	備考
企業実習	企業実習	3～5	1～2	
高等教育機関 等の公開講座	公開講座	4～5	相当	大学等により 名称が異なる
応用技術セン ター活動	プロジェクト実習	1～5	1	

※卒業に必要な単位には含まれません

(資料)新旧対照表

(旧)	(新)																								
第 43 条 専攻科の授業料等は以下の通りとする。 <table><tr><th>費 用</th><th>納 付 額</th></tr><tr><td>入 学 金</td><td>入学時 150,000 円</td></tr><tr><td>授 業 料</td><td>年額 900,000 円</td></tr><tr><td>実験実習費</td><td>年額 140,000 円</td></tr><tr><td>施設設備費</td><td>年額 200,000 円</td></tr><tr><td>校 費</td><td>年額 45,000 円</td></tr></table>	費 用	納 付 額	入 学 金	入学時 150,000 円	授 業 料	年額 900,000 円	実験実習費	年額 140,000 円	施設設備費	年額 200,000 円	校 費	年額 45,000 円	第 43 条 専攻科の授業料等は以下の通りとする。 <table><tr><th>費 用</th><th>納 付 額</th></tr><tr><td>入 学 金</td><td>入学時 150,000 円</td></tr><tr><td>授 業 料</td><td>年額 900,000 円</td></tr><tr><td>実験実習費</td><td>年額 140,000 円</td></tr><tr><td>施設設備費</td><td>年額 200,000 円</td></tr><tr><td>校 費</td><td>年額 81,000 円</td></tr></table>	費 用	納 付 額	入 学 金	入学時 150,000 円	授 業 料	年額 900,000 円	実験実習費	年額 140,000 円	施設設備費	年額 200,000 円	校 費	年額 81,000 円
費 用	納 付 額																								
入 学 金	入学時 150,000 円																								
授 業 料	年額 900,000 円																								
実験実習費	年額 140,000 円																								
施設設備費	年額 200,000 円																								
校 費	年額 45,000 円																								
費 用	納 付 額																								
入 学 金	入学時 150,000 円																								
授 業 料	年額 900,000 円																								
実験実習費	年額 140,000 円																								
施設設備費	年額 200,000 円																								
校 費	年額 81,000 円																								

● 高専規則第 001 号__教務規則改定の理由

第 43 条 専攻科の授業料等のうち、「校費」の改定については、昨今の物価高騰をはじめとする本学の状況を総合的に考慮したためである。

以上

サレジオ工業高等専門学校自己点検・評価の基本方針

高専その他第 026 号

制定 2022 年 4 月 27 日

最終改定 2022 年 6 月 24 日

1. 趣旨

この基本方針では、本校の教育研究の質の改善および向上を図るため、学校教育法第 109 条第 1 項にもとづき本校で実施される自己点検・評価の方針を述べる。

本校は機関別認証評価(学校教育法第 109 条第 2 項にもとづき行われる認証評価機関が行う点検・評価)、第 3 者評価(機関別認証評価以外の外部機関が行う点検・評価)および外部評価(外部有識者によって構成される本校の外部評価委員が行う点検・評価)など、様々な点検・評価を実施している。これらの点検・評価を通して本校の教育研究の質の改善および向上を図るために、本方針にもとづいた教育研究や組織運営に関する継続的な点検と評価を行うものである。

2. 自己点検・評価の対象

自己点検・評価の対象は本校の活動全般とし、以下の観点に分けて実施する。

- (1) 卒業・修了認定の方針に基づいた活動
- (2) 教育課程の編成および実施の方針に基づいた活動
- (3) 入学者受け入れの方針に基づいた活動
- (4) 学生支援の方針に基づいた活動
- (5) 研究および研究活動支援の方針に基づいた活動
- (6) FD(ファカルティ・ディベロップメント)の方針に基づいた活動
- (7) 学校組織および教員・教育支援者の状況について
- (8) 学習環境について
- (9) 財務基盤および管理運営について

3. 自己点検・評価の実施体制および項目

自己点検・評価は自己点検・評価委員会の統括のもと、「2. 自己点検・評価の対象」に示した(1)～(9)の観点について、別表 1 に示す責任者と対応部署が中心となり、専攻科、準学士課程の各科および事務部門の各課等と協力して行う。また、自己点検・評価の項目については、各活動の方針に基づいて活動が行われ、その成果に対する検証をすることで、自己点検・評価が改善に資するものとなることを考慮して、観点ごとに別表 2 に定める。

4. 実施方法について

自己点検・評価は以下の手順にて実施する。

- (1) 別表2に示す各担当において自己点検・評価に必要なデータや情報を定期的に収集し、未来戦略本部において体系的に整理し管理する。
- (2) 専攻科、準学士課程の各科および事務部門の各課等は、観点における状況を根拠資料やデータにもとづいて自己点検・評価し、各観点の責任者に報告する。
- (3) 責任者は、(2)の報告にもとづいて、観点到係る自己点検・評価案を取りまとめる。
- (4) 観点(1)～(6)の自己点検・評価案は、教育運営会議（以下「EMC」という）の審議を経て、自己点検・評価委員会に提出される。また、観点(7)～(9)の自己点検・評価案は、事務運営会議（以下「OMC」という）の審議を経て、自己点検・評価委員会に提出される。
- (5) 自己点検・評価委員会は全ての観点到の自己点検・評価案にもとづいて全校に係る点検および評価を行い校長に報告する。

5. 自己点検・評価の実施時期

自己点検・評価の実施時期は、本校が学校教育法第109条第2項において義務付けられている機関別認証評価の実施時期を考慮して、自己点検・評価委員会にて決定する。ただし次回の機関別認証評価の実施までの間に自己点検・評価は2回実施するものとする。

自己点検・評価を実施するまでの期間については、自己点検・評価の観点到ごとに毎年基礎データを収集し分析(モニタリング)を行う。

6. 自己点検・評価に基づく改善

自己点検・評価の結果に基づいて、責任者は改善策の検討および実施を関係部署に指示する。また、校長は自己点検・評価に基づいて、必要があれば責任者に改善策の検討および実施を指示する。

7. 自己点検・評価の公表

自己点検・評価の結果は開示に適さないと判断したものを除いて、本校ウェブサイト等を通して広く社会に公表する。

附 則

- 1 この規程は、2022年4月27日から施行する。
- 2 この規程は、2022年4月1日に遡って適用する。
- 3 この規程は、2022年6月24日から改正施行する。
- 4 この規程は、2022年4月1日に遡って適用する。

サレジオ工業高等専門学校自己点検・評価委員会規程

高専規程第 133 号

制定 2021 年 10 月 11 日

最終改正 2022 年 11 月 24 日

（設置）

第 1 条 サレジオ工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、校長の諮問機関として自己点検・評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

（目的）

第 2 条 委員会は、本校の教育の状況について自己点検評価（以下「自己点検・評価」という。）および点検・評価にもとづく改善を行うことを目的とする。

（協議事項）

第 3 条 委員会は、次の事項を協議する。

- 一 自己点検・評価の基本方針に関すること。
- 二 自己点検・評価の実施及び公表に関すること。
- 三 機関別認証評価に関すること。
- 四 第三者評価に関すること。
- 五 外部評価に関すること。
- 六 点検・評価にもとづく改善に関すること。
- 七 その他、点検・評価および改善に関する必要な事項

（組織）

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。

- 一 副校長
- 二 事務長
- 三 教務主事
- 四 学生主事
- 五 専攻科長
- 六 募集統括長
- 七 総務施設課長
- 八 教務学生課長
- 九 学生支援課長
- 十 未来戦略本部長
- 十一 その他、校長が必要と認めた者

（任期）

第 5 条 委員の任期は、1 年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は前任者の残任

期間とする。

(委員長)

第6条 委員会に委員長（以下、「委員長」という。）を置き、これに副校長があたる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長は、委員会の審議事項を校長に報告する。

(運営)

第7条 委員会は全委員の2/3以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数以上を持って決する。可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会に置いて必要があると認めた場合は、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聞くことができる。

(総務)

第9条 本委員会の総務は事務長に指名された者がこれに当たる。

附 則

1 この規程は、2021年10月11日から施行する。

2 この規程は、2021年4月1日に遡って適用する。

3 この規程の制定に伴い、高専規程第066号「自己点検評価委員会規程」を廃止する。

4 この規程は、2022年6月24日から改正施行する。

5 この規程は、2022年4月1日に遡って適用する。

6 この規程は、2022年11月24日から改正施行する。

7 この規程は、2022年4月1日に遡って適用する。

8 この規程の制定に伴い、高専規程第036号「JABEE審査委員会規程」、高専規程第080号「教育システム委員会規程」および高専その他第016号「教育システム委員会に置く分科会設置について」を廃止する。

大学等名	サレジオ工業高等専門学校	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	サレジオ高専数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシー）	申請年度	令和 6 年度

取組概要

●プログラムの目的

社会に有為な人材を育成するため、デジタル人材として必要な基礎的な知識と技能を身につけ、情報が社会に与える影響を理解し、人間中心の適切な判断ができるようになる学生を育成すること。

●プログラムの特徴

高等専門学校ということで中学校卒業したばかりの学生が、本プログラムを履修することを意識し、第一学年で配当される「情報倫理」にて、タイピングの基本からインターネットの初歩的な知識、メールの扱い方など基礎中の基礎から学ぶ。

やがて情報社会の利便性や危険性、必要となる倫理観を理解したうえで、講義の終盤にSociety 5.0時代に活躍するために必要なデータサイエンスやAIなどの知識・概念を学ぶ。

第三学年で配当をしている「確率統計学」にて、数学的な知識を用いてデータの基本的な活用法を学ぶ。

「情報倫理」で学んだ概念・知識と「確率統計学」で得たデータを活用する手法が組み合わさることでプログラムの目的を果たす。

実施体制

